

シンポジウム主旨説明

MAKINO, Eiji / 牧野, 英二

(出版者 / Publisher)

法政哲学会

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Bulletin of Hosei Society for Philosophy / 法政哲学

(巻 / Volume)

2

(開始ページ / Start Page)

57

(終了ページ / End Page)

58

(発行年 / Year)

2006-05

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00007917>

濱田義文先生 追悼シンポジウム

シンポジウム主旨説明

司会者 牧野 英二

まず、始めに本シンポジウムの主旨から説明させて戴きたい。昨年九月に濱田義文先生が亡くなられた後、委員会では今回の大会時に、法政哲学会の追悼企画として次のような主旨の提案がなされ、決定された。すなわち、「濱田先生の学問研究について振り返り」、シンポジウムのなかで、「濱田先生が生前の研究活動のなかで保持されていたトポ

ス(論点)を多面的に展開し、そしてそれらがどのような仕方で継承され、またされるべきかということを立て的に明らかにする」。委員会からの本シンポジウムの主旨説明は、以上のようであった。

したがって、この場ではもっぱら濱田先生の学問業績についてのみ研究者の立場から議論することにし、個人的な思い出話や先生の生前のエピソードなどには立ち入らない

ことにさせて戴きたい。司会者、発表者だけでなく、会場
の多くの会員の方々も濱田先生を追悼する機会に、様々な
感懐や思い出などをもたれていることと拝察される。しか
し、これらについては、すべて懇親会の場でお話して戴き、
ここでは、濱田先生の残された学問研究の評価と継承とい
う観点からのみ扱わせて戴くので、予め御了承の上、この
シンポジウムの成功のために宜しくご協力のほど、お願い
申し上げます。

次に、シンポジウムの進行について説明させて頂きたい。
発表者は、濱田先生と関係の深かった菅沢龍文氏、小野原
雅夫氏、荻間寅男氏、笠原賢介氏と、司会者を兼ねる牧野
英二の五名である。まず始めに、プログラムの掲載順にお
一人十三分をめぐりにご報告戴く。次に、五人の発表が終了
後、司会者から発表者に若干の関連質問ないし補足質問を
させて頂きたい。さらに、司会者に対する回答ないし発表
者相互の質疑や補足のコメントなどが終了後、会場から関
連のご質問・ご意見・ご感想などをお出し戴きたいと考え
ている。

したがって、五人の報告に直接関連しないと思われるよ
うな分野・研究領域の会員にも、議論にご参加戴き、濱田
先生のご研究と直接・間接に関係する議論の広がりや深ま
りをご確認戴ければ、本シンポジウムの狙いは十分果たせ
たことになるのではないかと考えている。

なお、本来ならば、司会者を兼ねる牧野は、最後に報告
するのが通常の遣り方であり、礼儀でもあるが、委員会の
意向でシンポジウムの進行上、牧野の報告から始めるのが
望ましいとのことなので、牧野から報告させて頂くことに
する。